



夢の本棚へ

発行所：松居直コレクション
プロジェクト
代 表：金戸 美紀予
事務局：石川県小松市
小馬出町10-3
空とこども絵本館
☎ 0761-23-0033
bookrin@city.komatsu.lg.jp



【活動方針】①絵本の楽しさを伝える〈親子読書の奨励〉②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える〈絵本文化の研究〉
③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える〈絵本文化の継承〉

世界に絵本を求めて②

〜気持ちが高揚する日本語の調べや響き〜



日本独特の物語絵本作り

◆私は、外務省から「日本の絵で物語を語る伝統が、ヨーロッパの人から見れば独特の文化だということが分かるように、ヨーロッパの大学に説明しに行つてほしい」と派遣されたことがあります



◆かえって日本の方が意識していないところがあって、もう一度日本の子どもたちに、日本の伝統、文化というものをしっかりと伝えていくためにも、そういう手法を取り入れて日本独特の物語絵本を作って行きたいと思いました。

世界各国の物語体験を

◆各国がいろんな文化

を持っていきますから、それをできるだけ幼年時代から日本の子どもたちが受け止めて、「物語体験」をしていく。

たとえば、グリムの昔話の絵本は、日本の昔話とは全く違いますから、子どもたちが見た時に教えなくても、「ああ、こういう物語もあるんだ」ということに気がつきますし、ロシアの昔話だってそうです◆世界にはたくさんのお話があります。そういう物語がそれぞれの国にあるわけですから、それを日本の子どもたちに伝えるというのが、私の2番目の編集方針の一つなんです。

言葉の調べや響き

◆「絵本は子どもに読ませる本ではない」というのが、私の絵本作りの第一前提です。絵

本は、絵を徹底的に読んだ時に、聞く言葉の世界を感じて一つになったところに、生き生きとした本当の豊かな絵本ができるんです。大人はやれないけど、意外と子どもができるんです◆耳から聞いている以上の言葉が、絵の中には描いてある。素晴らしい絵に、言葉が生き生きするようないメージが絵として表現されているわけですね。そうすると、ただ言葉の意味が分かるだけじゃなくって、言葉が何を伝えようとしているか、の、ほんとはよく分かるようになる◆大人は、だいたい子どもに言葉を教えようと思いません。特に、意味を教えようと思いません。そうじゃなくって、言葉の一番本質的な「調べ」だとか、「響き」だとか、そういうところが伝わらないと気持ちが伝

日本語のテキストが大事

わらない。生き生きして来ないんですね。ですから、絵本では、子どもに読んでやるものです。散文でもいいです。読んであげてください◆そういう意味では、絵本を選ぶ時に、一番考えないといけないのは、絵本のテキストの日本語です。日本語としてどれほど文章が素晴らしいかどうかが。読んでいる感じがなくて、耳で聞きますと、日本語の善し悪しがよく分かるんです。ほんとに生き生きとした日本語で、生きた日本語で綴られていますと、気持ちが高揚してくるんです。

◆体を生き生きと動かすほどの力ってのが、言葉にはあるんですね。それが今の子どもたちには、そういう体験がない。なぜか？「機械語」だからです。機械から出てくる言葉ってのは、人間の言葉じゃ

ありませんから、気持ちが高揚して来ないんですね◆だいたいテレビの言葉ってのは、終わった途端に、みんな忘れてしまますね。「聞く」って力が養われない。すぐ聞き流してしまう。毎日、朝から晩まで聞き流してる。それが、子どもたちの日本語の成長に非常に大きな問題になるだろうと思います◆私は、テレビは嫌いじゃありません。でも、テレビの言葉ってほんとに終わった途端に、ああ何だったかなと心に響いて来ないんです。話をしている人はどんな話をしている、本当に伝えたいって、本当に伝えたいって、そういう言葉の使い方ありません◆だから、子どもたちにとって大切なことは、皆さんが絵本をお選びになる時に日本語のテキストを気をつけて選んでいただくことかと思えます(つづく)

